

山口大学の化学療法サテライト病院配置の取組

山口大学附属病院は、各地域の病院でも化学療法を実施できるように連携、整備し、がん患者への治療提供機会を向上

【従来】

山口大学
附属病院



山口大学附属病院では様々な進行度のがん患者が薬物療法のために集中



各地域のがん患者
(薬物療法が必要な方)



・遠距離通院が何度も必要
(高齢患者や勤務者などの負担は大)



各地域の一般病院

・薬物療法の実施例はごく少数

【現在】

がん患者の治療提供機会向上のために地域の一般病院に「サテライト病院」として、がん薬物外来治療提供に参画することで、大学病院と地域の病院の連携により、県全体のがん薬物治療レベルの向上を図るとともに、できるだけ身近な地域での治療環境を提供する。

山口大学附属病院

腫瘍内科医
(専門医)

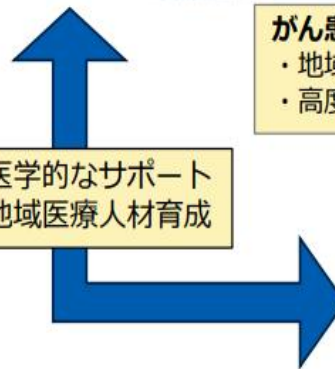


集約化

がん患者は山口大学附属病院に紹介受診し専門医が個別の治療方針を決定

- ・地域で治療できる症例は住居に近い一般病院が対応
- ・高度専門的治療が必要なら山口大学附属病院が引き続き対応

医学的なサポート
地域医療人材育成



均てん化

がん患者の治療
提供機会増加

治療開始から終末期まで
サテライト病院の医師が担当

医療従事者の
モチベーション向上

病院の
収益増加

エビデンスに裏付けされた薬物治療を提供する方針を徹底 (治療の地域標準化)

・山口大学の専門医により、地域のサテライト病院の外科医等の化学療法を支援。

山口大学は、サテライト病院を技術面でバックアップ

- ・重篤な副作用等で治療が必要となった症例は、山口大学医学部附属病院が引き受け。
- ・医療スタッフからの専門的相談に対応。